

市立病院・診療所紹介：まごころ病院



国民健康保険まごころ病院は、昭和40年7月に胆沢町国民健康保険若柳病院として開設され、平成8年4月には、医療・保健・福祉の連携をより充実させるため、胆沢町の健康福祉ゾーンである「達者の里」に新築移転し、『まごころ病院』となりました。

一般病床30床、ケア病床18床です。
診療科は、内科、小児科、循環器科、消化器科、外科、整形外科、歯科口腔外科

一般病床30床、ケア病床18床です。

診療科は、内科、小児科、循環器科、消化器科、外科、整形外科、歯科口腔外科

及川雄悦院長から、「まごころ病院は地域に密着した医療を展開しており、各科の common disease に幅広く対応しています。訪問診療は奥州一円を診療圏とし、呼吸管理を要する神経難病やガン末期、あるいは自宅においてのお看取りの希望が増えてきています。

また、増大する各種高齢者施設の医療ニーズにも応えており、地域包括ケアの一翼を担っていると自負しています。経験と技術を生かしながら、地域の医療に貢献する醍醐味を一緒に味わってみませんか！」とのコメントをいただきました。



写真は、胆沢ダム湖畔でヨガ体験

奨学生や養成医師の皆様の病院見学をお待ちしております。

連絡先：まごころ病院

〒023-0401 岩手県奥州市胆沢南都田大持 40

TEL0197-46-2121 FAX0197-46-2203

<https://www.city.oshu.iwate.jp/site/magokoro/>

医師養成事業解説コーナー

週1回の診療応援期間の義務履行期間換算方法

例えば、1年目48日、2年目45日、3年目51日診療応援した場合の計算例です。

- 1 診療応援する医師の勤務時間が1日の勤務時間である7時間45分未満の場合も1日勤務したとみなして計算します。
- 2 応援医師の1日の勤務時間7時間45分を1.25倍した時間をもって、義務履行期間計算を行います。
 $7時間45分=465分 \quad 465分 \times 1.25倍 \div 581.25分 \div 581分$
- 3 1日診療応援に来た場合、応援医師は、581分勤務したと見なし、実勤務日数にかけて義務履行を計算します。
なお、全診療応援期間の合計を計算の結果1か月未満の端数が出た場合は、1か月に切り上げて義務履行期間とします。
- 4 計算例として、1年目48日、2年目45日、3年目51日合計144日勤務した場合
 $144日 \times 581分 = 83,664分$ 勤務したものと見なします。
- 5 1日の勤務時間は7時間45分、1週間の勤務時間は38時間45分なので、2,325分である。1年は52週になるので、 $2,325 \times 52週 = 120,900分$ 、1月は10,075分になります。
- 6 上の例で応援医師の義務医履行期間は、4の83,664分 $\div 10,075分 = 8.3月 \div 9月$
- 7 今回の例では、9か月義務履行したものの計算結果になりました。

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和2年5月28日発行 奥州市医療局医師確保推進室

〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

奥州市紹介 郷土の偉人

高野長英 (文化元年～嘉永3年 1804 年～1850 年)



高野長英は現在の奥州市水沢吉小路に生まれた幕末の蘭学者です。名は譲、のち長英。1804 年(文化元年)陸奥国仙台藩の一門である水沢領主水沢伊達家家臣・後藤実慶の三男として現在の奥州市水沢に生まれる。

長英は、幼いころ父と死別し、母方の伯父高野玄斎の養子となった。玄斎は伊達将監の侍医であった。文政3(1820)年17歳のおり、医学修業のため江戸に出て、吉田長淑の内弟子となった。

同8年長崎におもむき、シーボルトの鳴滝塾で西洋医学と関連諸科学を学んだ。同11年11月にシーボルト事件が起こると、いちはやく姿をかくし、事件のほとぼりがさめるのを待って九州を去り、天保1(1830)年10月に江戸に戻った。

郷里水沢に帰るのを拒んで、高野家の相続権を放棄し、町医師となった。同3年にわが国最初の生理学書『西説医原枢要』を著し、第1巻を刊行した。渡辺華山を知ったのはこの年である。それ以来、華山の蘭学研究を助け、天保飢饉(1832)の際にはその対策のために『救荒二物考』や『避疫要法』を著し、あるいは『戊戌夢物語』を著して幕府の対外政策を批判した。

天保10年5月に蛭社の獄が起こると、これに連座して永牢(無期禁固)の判決を受けた。弘化1(1844)年6月29日の深夜、牢内雑役夫栄蔵に金を与え、放火させて脱獄逃亡した。ただちに江戸を脱出し、郷里に直行したのち、まもなく江戸に再潜入し、田原藩医鈴木春山の庇護のもとに、『兵制全書』や『三兵答古知幾』を翻訳した。

宇和島藩主伊達宗城の知遇を得、嘉永1(1848)年2月に宇和島に至り、兵書翻訳に従事した。翌年1月同地を去り、8月に江戸に再潜入して、翌3年に沢三伯という名で医業を営んだが、隠れ家を捕吏におそわれて自殺した。

高野長英の足跡 (文化元年～嘉永3年 1804 年～1850 年)

- 1 歳～10 歳 岩手 現奥州市水沢吉小路で生まれ、漢学を祖父の元端と坂野長安に、蘭学を養父の玄斎から学ぶ。
- 11 歳～16 歳 岩手 興田(現一関市大東町)において、祖父の元端とともに漢学を教える。
- 17 歳～21 歳 江戸(東京) 兄の湛斎、いとこの遠藤養林と共に医学を学ぶため江戸に出る。吉田長淑の門に入りオランダ医学を学ぶ。
- 22 歳～25 歳 長崎 シーボルトに学ぶ。捕鯨に関する論文をシーボルトに提出し、ドクトルの称号を受ける。シーボルト事件起きる。
- 26 歳～27 歳 九州・広島・兵庫 広瀬淡窓を訪ねる。広島において開講する。九州から京都まで患者治療臨床記録を「客中証案」著す。
- 27 歳～35 歳 江戸 「大観堂」という塾を開き、診療、講義・訳述を行う。渡辺華山らと尚歯会を作り内外の情勢について研究する。日本初の生理学書「医原枢要」を著す。飢饉対策としての「勸農備荒二物考」、「避疫要法」を著す。「夢物語」を著す。
- 36 歳～47 歳 江戸・名古屋・京都・四国・広島・鹿児島・新潟・水沢・宮城・福島・山形・江戸 「蛭社の獄」により永牢となる。江戸小伝馬町の牢屋敷火災に乗じて脱獄する。日本を北から南まで、潜航千里、その間多くの著訳を著す。名を沢三伯と改め、江戸青山町で医業を営む。捕吏に襲われ自刃する。



奥州市立 高野長英記念館 入館料は200円です。

〒023-0857 奥州市水沢中上野町1番9号

電話 0197-23-6034 Mail: takanochoei@city.oshu.iwate.jp

開館：9時から16時30分(毎週月曜日と年末年始は休館。)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館となることがあります。